

長崎県動物愛護管理センター(仮称)に関するサウンディング型市場調査(対話)
結果の公表について

令和5年7月14日

長崎県県民生活環境部生活衛生課

1 サウンディング実施の経緯

本県では、動物愛護に関する普及啓発及び収容動物の譲渡を推進し、「人と動物が共生する住みよい社会」の実現に寄与することを目的とした「長崎県動物愛護管理センター(仮称)」の整備を検討しています。

事業の今後の検討・推進に当たり、民間事業者等と連携した施設の設置・運営について、幅広いご意見・ご提案をいただきたく調査を実施いたしました。

2 サウンディングの実施スケジュール

令和5年3月17日	サウンディング実施要領の公表
令和5年4月10日～令和5年4月14日	サウンディングの実施
令和5年7月14日	サウンディング結果概要の公表

3 サウンディングの参加者:計6者 ※()内は業種

NECキャピタルソリューション株式会社(ファイナンシャルアドバイザー)

株式会社環境デザイン研究所(設計)

株式会社九電工(建設)

株式会社クリーン工房(運営・維持管理)

九州建設株式会社(建設、維持管理)

大和リース株式会社長崎支店(設計・建設・運営・維持管理)

4 サウンディング結果の概要

(1)事業方式に関する提案

- ・犬猫を中心とした生き物の命を守る施設という点で、ある程度のスパンで更新していかないといけないのではないかと。
- ・事業年数について、投資償却期間を考慮すると12年以上20年未満が望ましい。建物の修繕時期を考えると15年程度が望ましい。
- ・動物愛護に関しても、15年から20年で社会的な情勢が変わってくると想定されることから、見直しの時期をいつにするのか見極めることが必要。
- ・動物愛護センターの業務にもPFIを適用できる。BTOのPFI方式がよい。
- ・PFI採用のメリットとして、動物愛護センターの本来の目的に加え、地域活性化等の提案が期

待できる。

・動物愛護センターは集客が期待できる市街地への設置は難しいため、民間事業者のみでの事業よりは、施設の中の一部を使って実施するスキームがよい。

(2)地域連携・民間事業に関する提案

・今後、土地確定を予定されていると思うが、人が集まりやすい場所かどうかで事業展開も変わってくる。

・大村市での整備であれば、空港が近いことから、他イベントとの連携により他自治体からの来所を期待できる。

・長崎県は、他の県からの観光客を期待できるという点で、センターにおいて効果的な事業ができるのではないかと。

・都心部では譲渡希望者が多いことから、官では実施が難しい県外譲渡を、民のネットワークで実施することが民間運営のメリットになる。

・賑わいを創出し、動物に関心がない人を集め、関心をもって帰ってもらうという点について、最低限の機能が揃い自由度のきく設備があれば、民間からいろいろな提案が出てくる。

・収益事業として、猫カフェや譲渡に伴うイベントを想定している。

・可能であれば、賑わっている場所に動物を連れていき、カフェを行う等、施設以外に事業エリアを広げる方法も考えられる。

・気軽に立ち寄っていただき、リピーターになっていただける憩いの場とするために必要な民間施設・収益施設が必要かを考慮して SPC を組成する。

・現在はボランティア団体が行っている内容を民間が事業化する場合、商売と捉えられ団体から反対されることが懸念される。現在ボランティアで実施している方と一緒に事業を実施できることが望ましいが、現在取り組まれているボランティア団体に限定されてしまうことが懸念される。民間側の収益事業の内容を制限されると取り組みが難しいと考える。

・集客のためのトリミングサービス・ドッグランに際し、近隣の民業圧迫の懸念が出てくる。

・民間収益事業を盛込む場合、インフラ整備まで求められると採算性が難しい。

・焼却炉は施設投資におけるウエイトが大きい。葬祭場の PFI 事業としてペット火葬を行っている事例があるため、近隣自治体と連携し、ペット火葬を実施している葬祭場の炉を活用する方法も考えられる。

・爆発的な集客力がある既存動物園を活用する方法もあるのではないかと。

・現施設について、場所的にはよく、海辺を見えるように明るくする等の工夫ができるのではないかと。

・長崎は尾曲がり猫の話もあるので、クラウドファンディングの実施は興味深い。

(3)動物の収容に関する提案

・設計段階から、動物福祉の関係者から助言をいただいたほうがよい。

- ・動物の感染リスクを考えたインフラ整備が必要。
- ・鉄筋コンクリート造の場合、動物が吠えたときに反響してストレスになる。
- ・ガラス張りによる動物の展示は、動物へのストレスになる。
- ・爬虫類生き物の種類(爬虫類、鳥類など)の収容を想定する場合は、水の管理や温度の管理など、犬猫とは違った施設整備が必要。
- ・動物が嫌いな方との住み分け、集客力を求めた際に飲食店が近くであっても大丈夫なのかといった課題整理が必要になる。
- ・動物を取り扱うことに関して、動物愛護の観点で配慮が必要であり、民間側でやるべきことを明確に提示いただきたい。
- ・本事業は生き物が関与するので、想定しづらいことが起こりうる可能性があることから、他事例を含めリスク分担をしっかりとやっていただきたい。

(4)その他、事業実施に関するご意見等

- ・ボランティア団体との関わり方については、県が事前に整理してほしい。
- ・現施設での運営メンバーがどのように取り組まれているのか、県が行わなければならない公的な部分と、広報・周知・啓蒙活動など民間にお願いしたい部分が整理されていると想定しやすい。
- ・事業実施において、地元企業とのマッチングを望む。
- ・県外事業者が実施できる内容なのか、もしくは県内事業者に期待する内容なのかについて、県の方針をお示しいただきたい。
- ・コストを抑えたいのか、運営について民間の活力を使いたいのか、殺処分を減らすために人を集めたいのか等、求める点に優先順位をつけ何をメインとするのかを明確にしてください。
- ・施設に最低限必要なものが示されれば、イメージが喚起される。

5 サウンディング結果を踏まえた今後の方針

今後、サウンディング結果を踏まえ、基本計画の策定に向けて引き続き事業方式等の整理・検討を進めてまいります。